

大 使 館 情 報

2021 年 1 月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢

【内政】

- (1) 上下両院議長の再選に関する最高裁判所の決定
- (2) 観光大臣の交代
- (3) 政府による「汚職対策計画」の発表
- (4) ボルソナーロ政権の政権支持率
- (5) 義務的なワクチン接種に関する最高裁場所の決定

【外交】

- (1) 伯・パラグアイ首脳会談
- (2) アラウージョ外相のEU・ラテンアメリカ・カリブ諸国外相会合への参加
- (3) ボルソナーロ大統領によるバイデン次期米大統領への祝意表明
- (4) 日伯防衛相・国防相テレビ会談及び防衛協力・交流に関する覚書署名式
- (5) 伯・南ア外相電話会談

3. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う諸外国からの入国制限

4. トピック

- (1) オズワルドクルス財団共催ウェビナー（在リオ総）
- (2) オンラインカレンダー展の開催（在リオ総）

5. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) 外務省海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢報告（12月発表の経済指標）

- (ア) 伯中央銀行が、週次で発表しているエコノミスト等への調査（フォーカス調査）によれば、昨年12月24日時点で、GDP成長率予測については、2020年は▲4.40%で前週から変わらず、2021年は3.46%で前週（3.49%）から0.03ポイント下落。インフレ率については、2020年は4.39%で前週から変わらず、2021年は3.34%で前週から0.03ポイント下落。
- (イ) 10月の鉱工業生産指数（季節調整済み）は前月比+1.1%となり、6か月連続で前月比増加を記録した。今年5～10月の鉱工業生産は+39.0%と増加し、パンデミック開始前の2月の水準を1.4ポイント上回った。
- (ウ) 10月の小売売上高は、前月比+0.9%と6か月連続の増加を記録し、パンデミック前の2月の小売売上を8.0ポイント上回った。
- (エ) 11月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.89%、11月の指数としては2015年以来最も高い上昇を記録した（前年同期比+4.31%）。2020年5月以降、食品価格の高騰を背景に消費者物価の上昇が続いている。
- (オ) 10月の全国の失業率（8月～10月の移動平均）は14.3%となり、7月～9月の移動平均の14.6%から0.3ポイント下落した。雇用者数は8,430万人で前四半期に比べ2.8%増加した。
- (カ) 経済省の発表によると、12月のブラジルの貿易収支は、前年同月比▲100.7%の4,160万ドルを記録、本年1～12月の貿易収支は、前年同期比+7.0%の509億9,460万ドルとなった。

(2) 経済政策等

- (ア) 12月3日、地理統計院（IBGE）は、第3四半期のGDP成長率を発表し、第2四半期（-9.6%）から急回復して+7.7%となり過去最高の伸びを記録した（前年同期比-3.9%）。部門別では、工業・サービス業が前期比大幅に上昇し、需要項目別では家計消費・固定資本形成が緊急援助の影響により増加した。
- (イ) 同17日、伯中銀は、四半期インフレ報告書を公表し、本年GDP成長率について-4.4%と前回（9月）-5.0%から上方修正した。2021年については3.8%と若干（-0.1%）下方修正された。
- (ウ) 同29日、地理統計院（IBGE）は、8～10月（3ヶ月平均）の失業率を発表、14.3%と前月比0.3ポイント下落した。依然として高水準の失業率だが半年ぶりに前月比下落し、雇用者数も増加に転じた。
- (エ) 2021年に予定されている伯中央銀行のオープンバンキングシステムの開

始により、金融機関によるデータ・商品及びサービスの共有が可能となり、サービスがより迅速かつ充実することが期待されている。本システムは、クレジット・保険・投資サービスその他の幅広い商品に適用される見通し（エスタード紙・10日付）

（オ）4月から開始された緊急給付金の支給が12月で終了。累計で7,000万人が受理したと推計される。

（3）金融政策

12月9日、ブラジル中央銀行の金融政策委員会は、政策金利（Selic）を年率2.00%に据え置くことを全会一致で決定した。政策金利の据え置きは3会合連続、声明文においてフォワード・ガイダンスの撤廃を示唆した。次回会合は1月27日及び28日に開催される予定。

（4）為替市場

12月の為替レートは、5.03～5.25 レアル／ドル台で推移。同月の前半は、米国の追加経済対策の合意期待と、欧米における新型コロナウイルスのワクチン接種開始の報道、伯中銀による年末のドル売りにより、レアル高となり一時5.01レアル／ドルまで上昇した。同月の後半から、伯議会における来年度予算を巡る財政悪化懸念、2020年末に向けて伯国内での感染拡大の懸念等から5.25レアル／ドルまでレアル安が進行した。

（5）株式市場

12月のブラジルの株式相場（Ibovespa）は、111,814～119,086ポイントで推移。欧米において新型コロナウイルスワクチンの接種が開始されたこと、米国で9,000億ドル規模の経済対策案が公表されたことを受けて、終始110,000ポイントを上回る高値圏で推移した。月後半に、英国の再ロックダウンにより下落する場面があったが、緊急援助金の年内終了に伴う財政懸念の後退によって月末には11か月ぶりに年初来高値を更新、終値では史上初の119,000ポイント台に到達した。